



ディベート 降圧療法におけるアンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬とカルシウム拮抗薬の有用性を比較する

10月8日(月・祝) 9:00～11:00 第3会場(アクトシティ浜松 コングレスセンター 4F 41会議室)

ディベート

降圧療法におけるアンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬とカルシウム拮抗薬の有用性を比較する

いとう ゆずる
伊藤 譲
静岡県薬剤師会

【目的】 高血圧の患者さんは4000万人といわれ、薬局では日常一番多く降圧剤の処方せんを取り扱います。本態性高血圧に始まり様々な臓器障害を引き起こす原因でもある高血圧の治療に対して、数多くの降圧剤が市場に出ており医師の選択肢も広がっています。しかし処方された薬剤が患者さんに最適なものは医師の選択にゆだねられており薬剤師は判断できません。日常の服薬指導において、薬剤の適正使用にはエビデンスに基づく事が大切であり、これを理解することはより積極的に踏み込んだ服薬指導につながります。なぜ降圧薬を続ける必要があるのか科学的根拠を伝えることで患者さんを合併症や臓器障害から守り、薬剤師の信頼につながっていくと考えます。今回の学術大会において初めて、高血圧治療においてどのような患者さんに何を選択するのか、エビデンスや経験に基づいた討論(ディベート)を企画しました。

【方法】 高血圧の治療において、適正使用の観点からどのような降圧剤が選択されることが望ましいのかを、今回の場合ではカルシウム拮抗剤(CCB)とアンジオテンシン2受容体拮抗薬(ARB)の作用機序の異なる2剤から、利点や欠点を考慮してどちらをどのような理由で第1選択薬として選ぶことが望ましいかについての討論(ディベート)を行います。ディベーターは4名の薬剤師で、それぞれの立場から意見を述べていただきます。その後討論を行い、さらに会場にお見えの方々にも参加していただき討論の輪を広げたいと考えています。これにより参加していただいた皆様の今後の服薬指導がさらに積極的に自信を持って行うことができるように役立たしていただけると考えます。会場にお見えの方々にも積極的にご意見をいただきたいと思えます。

ディベーター1: 辻 大樹 静岡県立大学薬学部 臨床薬効解析学分野

ディベーター2: 三浦 剛 千葉大学医学部附属病院薬剤部

ディベーター3: 間瀬 定政 愛知県薬剤師会(ませ調剤薬局金山店)

ディベーター4: 島 巧 静岡県薬剤師会(レモン薬局三方原店)

高血圧の治療に対して、臓器保護や重症化リスクを軽減させるのは、2種類の薬理作用の中で推奨されるにはどちらであるかなどを会場の参加者と一緒に考えて行きたいと思えます。初めての試みですので是非参加して体験していただきたいと思えます。